

秋田県埋蔵文化財センター一年報

42

令和5年度

2024・8

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の「岩佩」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

秋田県埋蔵文化財センターは、県内に所在する埋蔵文化財の調査と研究を目的として昭和56年に設立された公的調査研究機関です。主な業務は、国道、ダム建設等の国や県が施工する公共事業に係る遺跡の記録保存を目的とする緊急発掘調査及びその調査成果を基にした活用事業並びに出土品・記録資料等の保管・管理業務です。

令和5年度の緊急発掘調査事業は、秋田市1遺跡、由利本荘市1遺跡、にかほ市3遺跡、横手市1遺跡、湯沢市1遺跡、羽後町1遺跡の合計8遺跡で実施しました。

秋田市の大巻Ⅰ遺跡では、縄文時代前期前葉の土器を伴う焼土遺構が数多く見つかりました。雄物川の自然堤防上に立地し、何回も洪水に見舞われながら同じ場所を繰り返し利用していたことが分かりました。湯沢市の立浪遺跡では、縄文時代前期中葉の玦状耳飾、板状土偶等が出土しました。にかほ市の大道遺跡では、複式炉のある縄文時代中期の竪穴建物跡を検出しました。同じ縄文時代中期の羽後町福島遺跡では、食料貯蔵用と思われる多数のフラスコ状土坑が見つかりました。そのほとんどは埋め戻され、火を焚く等の廃絶儀礼を行っていたことが分かりました。また、にかほ市寺沢遺跡では、古代の製塩土器が出土し、近接するカウヤ製塩遺跡との関連が想定されています。さらに、由利本荘市の本荘城跡では、二の丸跡を中心に調査し、盛土、空堀など中世の名残りのある遺構を検出しました。

令和5年度の活用事業では、発掘調査報告会を開催し、これに合わせて県立図書館において実施した出張展示「あきた遺跡発掘最前線！2023」で、今年度の発掘調査の成果を県民に情報発信することができました。また、50年に及ぶ払田柵跡の調査成果を活かした「HOTTAー『払田柵跡』発掘半世紀ー」を、9月から11月まで県立博物館で実施し、期間中5千人を超える方々に観覧いただきました。国立歴史民俗博物館の三上喜孝教授の講演会やギャラリートークを開催したりして、古代の払田柵に思いを巡らせていただきました。この他、セカンドスクール、出前授業、出張展示等多くの要望に応じて参りました。

本書は、令和5年度に秋田県埋蔵文化財センターが実施した事業活動のまとめです。埋蔵文化財の緊急発掘調査事業や活用事業は、文化財保護思想の普及・啓発に寄与するものと考えております。

今後とも当センターの関連事業につきましては、より一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年8月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 磯村 亨

目 次

第1章 沿革	1	(5) 埋蔵文化財発掘調査報告会	30
第2章 組織・施設		(6) 講座の動画配信	31
第1節 組織	2	5 体験教室	
第2節 施設の概要	2	(1) 主人体験メニューと概要	32
第3章 令和5年度のあゆみ	3	(2) オープンラボ	33
第4章 事業の概要		(3) 払田柵跡の歩き方	33
第1節 発掘調査事業		6 学校利用・研修等	
1 発掘調査一覧		(1) セカンドスクールの利用	34
(1) 発掘調査	5	(2) インターンシップ・職場体験	34
(2) 確認調査	5	(3) 博物館実習	35
(3) 整理	6	(4) 中堅教員等資質向上研修	35
(参考) 教育庁払田柵跡調査事務所	7	7 貸し出し	
(参考) 市町村教育委員会等による 発掘調査一覧	7	(1) 貸し出しキット等	36
2 発掘調査概要		(2) 資料貸し出し	36
(1) 大巻I遺跡	8	(3) レファレンス	36
(2) ヲフキ遺跡	10	第3節 その他の活動	
(3) 大道遺跡	12	1 図書整理・公開	
(4) 寺沢遺跡	14	(1) 全国遺跡報告総覧への公開	37
(5) 立浪遺跡	16	(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」への一般公開	37
(6) 福島遺跡	18	2 刊行物	37
(7) 坂三塔遺跡	20	3 講演・研究論文等	40
(8) 本荘城跡	22	4 職員研修会	
第2節 活用・普及事業		(1) 不祥事防止研修	40
1 活用・普及事業一覧表	24	(2) 大学院生研究発表会研修	40
2 遺跡現地見学会	25	(3) 防災・避難訓練	41
3 展示		(4) 全国公立埋蔵文化財センター 連絡協議会北海道・東北プロ ク会議	41
(1) 常設展	25	第5章 運営協議会	
(2) 企画展	25	1 委員	42
(3) 企画コーナー展	26	2 事務局	42
(4) あきた埋文出張展示	26	3 第1回	42
4 講演会・講座		4 第2回	43
(1) 講演会	27	令和5年度 職員名簿	44
(2) あきた埋文考古学セミナー	27		
(3) あきた埋文金曜講座	28		
(4) あきた県庁出前講座	29		

第1章 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町（現北秋田市鷹巣）に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘肅省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年4月1日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。
平成22年7月1日	秋田市に中央調査班移転
平成24年3月6日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行
平成28年9月4日	秋田県埋蔵文化財センター設立35周年記念講演会開催
令和3年	秋田県埋蔵文化財センター設立40周年記念式典 *新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。
令和5年9月15日	秋田県埋蔵文化財センター設立40周年記念コラム集「土に聴け」（秋田魁新報社）発刊

第2章 組織・施設

第1節 組織



第2節 施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地 〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地

TEL 0187-69-3331 FAX 0187-69-3330

敷地面積 6,962.000㎡

本所建物 鉄筋コンクリート2階建 1,527.304㎡

第1収蔵庫 鉄骨造平屋建 360.000㎡

第2収蔵庫 鉄骨造平屋建 297.680㎡

電気・ポンプ室 平屋建 59.780㎡

中央調査班

所在地 〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1

TEL 018-893-3901 FAX 018-893-3899

建物 鉄筋コンクリート平屋建 2,141.000㎡

男鹿収蔵庫

所在地 〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢200

敷地面積 55,521.000㎡

建物 鉄筋コンクリート3階建 7,524.360㎡

第3章 令和5年度のあゆみ

【令和5年度】

- 4月3日 新任式（本所・中央）
- 4月17日 ヲキ遺跡発掘調査（～6/9）
- 5月13日 企画コーナー展「埋文職員の自由研究」（～3/31）
- 5月15日 岩ノ下遺跡確認調査（～5/23）
- 6月2日 第1回金曜講座「六郷扇状地と縄文遺跡群」吉川耕太郎
- 6月3日 オープンラボ（県立農業科学館「パラフェスタ」）
- 6月6日 大道遺跡発掘調査（～8/30）
- 6月7日 大巻1遺跡発掘調査（～10/19）
- 6月12日 立浪遺跡発掘調査（～11/22）
- 6月15日 第1回運営協議会
- 6月23日 立浪遺跡体験発掘（雄勝小学校6年生）
- 6月30日 第1回職員研修会（不祥事防止研修「交通事故をおこさない」）
- 7月4日 寺沢遺跡発掘調査（～9/15）
- 7月7日 第2回金曜講座「払田柵跡出土の文字資料」谷地薫
- 7月8日 考古学セミナー「出羽国の対蝦夷政策最前線・払田柵跡」吉川耕太郎（羽後町多目的研修集会施設）
- 7月13日 虫内I遺跡確認調査
- 7月15日 第1回出張展示「これってナンダ？謎の出土物たち」（県立図書館～8/15）
- 7月17日 臨時休館（※大雨のため）
- 7月23日 オープンラボ（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ「縄文土器づくり」）
- 7月24日 湯沢翔北高校インターンシップ（～7/26）
- 7月25日 小学生職場体験「ミズモの郷キャリアスクール」（～7/27）
- 7月26日 オープンラボ（史跡払田柵跡「払田柵ふるさと体験ワークショップ」）
- 7月29日 体験教室「払田柵跡の歩き方」（史跡払田柵跡）
- 8月1日 角館高校・大曲高校インターンシップ（～8/3）
- 8月4日 第3回金曜講座「秋田市大又II遺跡の発掘成果と古代官衙」眞井田宏彰氏
- 8月5日 大巻1遺跡現地見学会
- 8月14日 国立歴史民俗博物館共同研究（～8/15）
- 8月17日 本町遺跡確認調査（～8/18）
- 8月21日 博物館実習（～8/25）
- 8月22日 立浪遺跡発掘体験（湯沢翔北高校雄勝校1・2年生）
- 9月1日 第4回金曜講座「喜！奇！機！ー遺跡ハッケン伝ー」安田創氏
- 9月5日 湯沢翔北高校雄勝校インターンシップ（～9/7）
- 9月6日 本荘城跡発掘調査（～11/6）
- 9月8日 考古学セミナー「出羽国の対蝦夷政策最前線・払田柵跡」吉川耕太郎（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）

- 9月12日 福島遺跡発掘調査（～11/30）
- 9月19日 坂三塔遺跡発掘調査（～11/9）
- 9月23日 企画展「HOTTAー『弘田柵跡』発掘半世紀ー」（県立博物館～11/5）
- 9月30日 第2回出張展示「土器に生ける秋の草花展」（県立農業科学館～10/9）
- 10月4日 甘肅省研修員来所（～10/6）
- 10月6日 第5回金曜講座「雄勝城、その所在地と実像に迫る」高橋学氏
- 10月14日 講演会「出土文字資料から見た弘田柵跡」三上喜孝氏（県立博物館）
- 10月27日 避難訓練
- 10月28日 オープンラボ（県立農業科学館「オータムフラワーフェスタ」）
- 11月3日 考古学セミナー「遺跡から見た白神山地西南麓の原始・古代」吉川耕太郎（八峰町峰浜地区文化交流センター「峰栄館」）
- 11月10日 第6回金曜講座「日本海地域における鉄鍋の生産と流通」磯村亨
- 11月20日 藤兵エ沢遺跡確認調査（～11/30）
- 12月1日 第7回金曜講座「世界遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』とあきたの縄文遺跡」新海和広
- 12月17日 第一收藏庫屋根一部破損（※強風被害）
- 12月22日 第2回職員研修会（大学院生研究発表会研修「The characteristics features of ground water in the Hondo-shiromawari area, Misato Town, Akita Prefecture, Japan」）トウグスバヤル・ミシエールト氏

【令和6年】

- 1月12日 第8回金曜講座「遺跡からたどる秋田県の旧石器時代」吉川耕太郎
- 2月2日 第9回金曜講座「キノコ形土製品と耳形土製品の謎」小林克氏
- 2月5日 第2回運営協議会
- 2月21日 所内発掘調査報告会
- 3月2日 第3回出張展示「あきた遺跡発掘最前線！2023」（県立図書館～3/12）
- 3月9日 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会（県生涯学習センター）
- 3月25日 退任式・離任式（本所）
- 3月29日 離任式（中央調査班）

第4章 事業の概要

第1節 発掘調査事業

1 発掘調査一覧

(1) 発掘調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	大巻I遺跡	雄物川水系直轄河川改修事業 国土交通省(秋田河川国道)	秋田市雄和新波 6/7～10/19	5,300	縄文：集落跡 平安：集落跡
2	ヲフキ遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川国道)	にかほ市象潟町大砂川 4/17～6/9	590	縄文：集落跡
3	大道遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川国道)	にかほ市象潟町間 6/6～8/30	2,600	縄文：集落跡
4	寺沢遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川国道)	にかほ市象潟町小砂川 7/4～9/15	2,000	縄文：狩猟場 平安：生産遺跡
5	立浪遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省(湯沢河川国道)	湯沢市下院内 6/12～11/22	4,000	縄文：集落跡
6	福島遺跡	交通安全対策事業(通学路対策) 県建設部(雄勝地域振興局)	羽後町足田 9/12～11/30	3,220	縄文：集落跡
7	坂三塔遺跡	一般県道植田平鹿線建設事業 県建設部(平鹿地域振興局)	横手市十文字町越前 9/19～11/9	850	縄文：集落跡
8	本荘城跡	国道107号建設事業 県建設部(由利地域振興局)	由利本荘市尾崎 9/6～11/6	194	近世：城館跡

(2) 確認調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	本町遺跡	地方街路交付金事業都市計画 道路八幡根岸線 県建設部(平鹿地域振興局)	横手市本町 8/17～8/18	90	近世：城郭跡
2	藤兵エ沢遺跡	秋田自動車道暫定2車線区間の4車線化事業 ネクスコ東日本	横手市前郷 11/20～11/30	565	縄文：狩猟採集地
3	岩ノ下遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省(鳥海ダム)	由利本荘市鳥海町百宅 5/15～5/23	596	中世～近世： 集落跡

(3) 整理

No.	遺跡名	事業名等	所在地	面積 (㎡)	主な時代：性格
		原因者	調査年度		
1	茱萸ノ木遺跡	通常砂防工事（オンデの沢） 県建設部（山本地域振興局）	能代市二ツ井町 令和元・2・3年度	8,494	縄文：集落跡
2	久保田城跡	あきた芸術劇場整備事業 県観光文化スポーツ部	秋田市千秋明徳町 平成30、令和元・2年度	12,310	平安：集落跡 江戸：城館跡
3	岩坂下遺跡	県単道路改築事業一般県道矢 坂糠沢線（岩坂下工区） 県建設部（北秋田地域振興局）	北秋田市綴子 令和4年度	550	古代：集落跡 近世：散布地
4	神田遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町洗 釜 令和2年度	5,250	縄文：集落跡
5	大巻Ⅰ・Ⅱ 遺跡	雄物川水系直轄河川改修事業 国土交通省（秋田河川国道）	秋田市雄和新波 令和4・5年度	8,020	縄文：キャンプ サイト・集落跡 平安：集落跡 中世：集落跡
6	清水沢遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町 百宅 令和2・4年度	1,895	縄文：散布地 弥生：散布地 古墳：散布地 江戸：墓地
7	ヲフキ遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町大 砂川 令和3・4・5年 度	2,100	縄文：集落跡・ 墓城
8	大南遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町大 須郷 令和3年度	2,500	縄文～近世：散 布地
9	赤塚遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省（湯沢河川国道）	湯沢市横堀 令和元・3年度	6,720	縄文：集落跡 中近世：散布地
10	横堀中屋敷遺 跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省（湯沢河川国道）	湯沢市横堀・小野 令和2・3年度	9,050	縄文：集落跡
11	小平沢出口遺 跡	雄物川上流河川改修事業 国土交通省（湯沢河川国道）	大仙市協和峰吉川 令和4年度	1,050	縄文：散布地 中世：集落跡
12	立浪遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省（湯沢河川国道）	湯沢市下院内 令和4・5年度	7,900	縄文：集落跡・ 墓城 弥生：墓城
13	大鍋遺跡	国道13号真室川雄勝道路事業 国土交通省（湯沢河川国道）	湯沢市上院内 令和4年度	850	縄文：キャンプ サイト
14	北ノ又沢Ⅲ遺 跡	成瀬ダム建設事業 国土交通省（成瀬ダム）	東成瀬村椿川 令和3・4年度	2,742	縄文：キャンプ サイト・墓城 弥生：キャンプ サイト
15	大道遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町関 令和5年度	2,600	縄文：集落跡
16	寺沢遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町小 砂川 令和5年度	2,000	縄文：狩猟場 平安：生産遺跡
17	福島遺跡	交通安全対策事業（通学路対策） 県建設部（雄勝地域振興局）	羽後町足田 令和5年度	3,220	縄文：集落跡
18	坂三塔遺跡	一般県道植田平鹿線建設事業 県建設部（平鹿地域振興局）	横手市十文字町越 前 令和5年度	850	縄文：集落跡
19	本荘城跡	国道107号建設事業 県建設部（由利地域振興局）	由利本荘市尾崎 令和5年度	194	近世：城館跡

(参考) 教育庁弘田柵跡調査事務所

No.	遺跡名	調査目的	所在地	面積 (㎡)	主な時代：性格
			調査期間		
1	史跡弘田柵跡 (第157次)	遺構内容確認調査	大仙市弘田・美郷 町本堂城回	167	平安：城柵官衙跡
			6/1～7/28		

(参考) 市町村教育委員会等による発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査機関	所在地	面積 (㎡)	主な時代：性格
		調査目的・事業名等	調査期間		
1	大館城跡	大館市教育委員会 市庁舎解体、大館市本庁舎 建設事業	大館市字中城	1,188	中世・近世： 城館跡
2	中仕田Ⅱ遺跡	大館市教育委員会 個人住宅建築	大館市早口中仕 田	71	縄文：散布地
			4/27～5/23		
3	サシトリ台遺跡	能代市教育委員会 発電用風車及び付属設備設 置、建設用ヤード整備	能代市外荒巻字サ シトリ台	359	平安：集落跡
			9/1～10/10		
4	史跡檜山安東氏城館 跡(檜山城跡)	能代市教育委員会 遺構内容確認調査	能代市檜山字古城	138	中世：城館跡
			5/17～9/29		
5	万固山天徳寺	秋田市教育委員会 重要文化財天徳寺ほか2棟 保存修理事業	秋田市泉三蔵根	95.9	近世：社寺跡
			10/30～12/6		
6	久保田城跡	秋田市教育委員会 佐竹史料館改築事業	秋田市千秋公園	463	近世：城館跡
			4/3～7/31		
7	上野小館跡隣接地	由理櫛・駅家研究会 学術調査	由利本荘市上野字 上野	30	時代：性格不 明
			5/20～5/28		
8	行ヒ森遺跡	にかほ市教育委員会 若者支援住宅整備事業	にかほ市平沢字行 ヒ森	1,725	平安・中世・ 近代：散布地
			4/4～10/2		
9	長岡森館	美郷町教育委員会 町内遺跡詳細分布調査	美郷町金沢字西長 岡森	30	時代不明：城 館跡
			10/3～11/13		
10	金沢城跡	横手市教育委員会 後三年合戦関連遺跡調査	横手市金沢字安本 館	300	平安・中世： 城館跡
			9/15～11/30		
11	蟹沢遺跡	横手市教育委員会 県営ほ場整備事業	横手市平鹿町中吉 田字蟹沢	2,432	古墳・平安・ 中世：集落跡
			5/8～7/21		
12	十足馬場南遺跡	雄勝城・駅家研究会 学術調査	横手市雄物川町造 山字十足馬場	325	奈良：集落跡
			8/26～11/5		

2 発掘調査概要

(1) 大巻Ⅰ遺跡

①調査要項

所在地	秋田県秋田市雄和新波字大巻32-2ほか
調査期間	令和5年6月7日～10月19日
調査面積	5,300㎡
遺跡の時代	縄文時代前期、平安時代
遺跡の性格	集落跡（縄文時代前期、平安時代）
事業名	雄物川水系直轄河川改修事業（新波地区）
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調査担当	武藤祐浩、乙戸崇、赤星純平

②調査概要

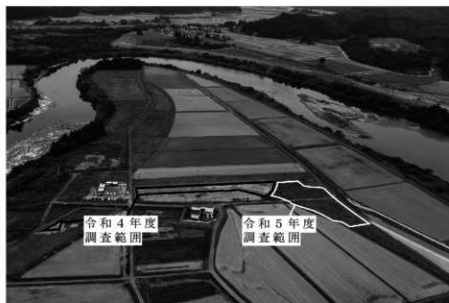
検出遺構		主な出土遺物	
縄文時代	焼土遺構 124基 土坑8基 集石遺構 3基	縄文時代	縄文土器 石器 石製品
平安時代	焼土遺構 1基 土坑2基	平安時代	土師器、須恵器

大巻Ⅰ遺跡は、秋田空港の南南東8.8km、秋田道協和ICから南南西7.5kmの地点に位置し、雄物川が大きく蛇行する地点の左岸自然堤防上に立地している。遺跡内の地層が、褐色土と砂が交互に重なることから、河川氾濫が繰り返されたと考えられる。また、昨年度の調査から縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡であることが判明している。

今年度の調査で特徴的なものは、縄文時代前期前半の焼土遺構群である。出土した縄文土器は、表面に羽状縄文や網目状燃糸文、不整燃糸文が施されたものや、底面に縄文のあるものもあり、大木1式、2式に帰属するものが主体である。焼土遺構は、平面形から径1mほどの円形や楕円形を呈し、焼土層の厚さは20cmと厚いものから5cmほどの薄いものまで多様である。注目されるのは、一つの焼土遺構の下に、褐色の間層を挟んで、別の焼土遺構が検出された所が複数あったことである。ある時期の活動で焼土ができ、その後河川氾濫の時期に遺跡から離れ、離水して活動可能になると再びこの地で活動した結果と考えられる。このような焼土遺構の検出面が3面確認されたことから、少なくとも2回の河川氾濫後もこの地での活動が繰り返されたことがわかる。また、焼土遺構の近くで、剥片が狭い範囲に集中して出土した所があり、石器製作跡と考えた。調査で出土した石器には、石鏃・石槍・石匙・石筥・異形石器・磨製石斧・凹石等があるが、特徴的なのは200点を超す石鏢である。1か所で3点、5点とまとまって出土した所もあった。

縄文時代前期前半の温暖な気候のピーク時には現在よりも2℃ほど気温が高く、海水面の上昇により河川勾配がゆるやかになったため、河川氾濫が度々発生していたと考えられる。調査では、堅穴建物跡は検出されなかったが、当遺跡は、火を焚いたり、石器をつくったり、魚をとったりといった活動が盛んに行われた場所である。この遺跡での活動痕跡が見られなくなる縄文時代前期後半には、雄物川支流の淀川右岸段丘上になノ山Ⅱ遺跡のような大集落が営まれており、この地域における縄文時代前期の遺跡の移り変わりを知る上で重要である。

遺跡遠景
(南から)



焼土遺構検出状況
(北西から)



石鍾出土状況
(南西から)



(2) ヲフキ遺跡

①調査要項

所在地	秋田県にかほ市象潟町大砂川字山屋57ほか
調査期間	令和5年4月17日～6月9日
調査面積	590㎡
遺跡の時代	縄文時代
遺跡の性格	集落跡、墓域
事業名	国道7号遊佐象潟道路事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調査担当	結城智、矢尾健、大上立朗

②調査概要

検出遺構		主な出土遺物
縄文時代 土坑22基	土器埋設遺構3基	縄文時代 土器
柱穴様ビット227基（大型建物跡の柱穴含む）		石器

ヲフキ遺跡は、JR羽越本線上浜駅から南東約1kmに位置し、烏海山山麓の北西裾部、標高31m前後の丘陵西斜面上に立地する。遺跡の南側800mには川袋川が西流し、扇状地を形成しながら日本海へと注いでいる。

ヲフキ遺跡はこれまで4次にわたる発掘調査が行われ、縄文時代前期から晩期、平安時代、中世・近世にかけ断続的に集落が営まれていたことが分かっている。特に縄文時代の遺物が多く、土器・石器の他、土偶等の土製品、石棒や石剣、装飾品等の石製品、骨角器等、豊富な種類があり、県沿岸南部を代表する縄文時代の遺跡として知られている。今回の発掘調査地は、遺跡全体の中では北端にあたり、第一次調査区及び第三次調査V区の北東側、令和4年度調査区の南側に位置する。

調査の結果、縄文時代前期の遺構・遺物を検出した。調査区の南東では柱穴様ビットがまとめて検出された。このビット群は、北東方向に2条並列することから、縄文時代前期の大型建物跡の柱穴と考えられる。長軸10m以上、短軸4m程で、柱穴の多くが切り合い関係にあることから、同じ場所で何度か建て替えを行っていたようである。柱穴は、埋土に小礫や人頭大の礫、石皿、磨石が詰め込まれており、人為的に埋め戻されたと考えられ、建物の廃絶儀礼に伴うものと考えられる。土器埋設遺構は3基確認されており、そのうちの1基からは完形の深鉢形土器が出土した。今回の調査区から出土した縄文土器は前期のものがほとんどであった。石器は剥片石器や石匙・石筥等があり、礫石器は磨石・蔽石等が出土した。

令和4年度の調査では块状耳飾などの副葬品を伴う墓域が見つかっている。今年度の調査区は、大型建物跡が検出されたことから居住域であると推測される。これら遺構の分布からヲフキ遺跡の北端は、墓域と居住域が空間的に区別された縄文時代前期の集落跡と考えられる。

ヲフキ遺跡全景
(北西から)



ヲフキ遺跡遺構分布



土器埋設遺構断ち割り
(北西から)



(3) 大道遺跡

①調査要項

所在地	秋田県にかほ市象潟町関字大道
調査期間	令和5年6月6日～8月30日
調査面積	2,600㎡
遺跡の時代	縄文時代
遺跡の性格	集落跡
事業名	国道7号遊佐象潟道路事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調査担当	巴亜子、櫻庭悦央

②調査概要

検出遺構	主な出土遺物
縄文時代 竪穴建物跡3棟 土坑1基	縄文時代 土器(中期) 剥片石器(石鏃・石匙・石筥・剥片)
時期不明 焼土遺構1基	礫石器(石皿・凹石・磨石)

大道遺跡は、日本海沿岸道路象潟ICより南へ約1km、奈曾川の支流により開析された標高100～102mの台地上に立地する。同じ台地上には縄文時代の新館遺跡、平安時代の上岩台遺跡が立地する。

調査の結果、縄文時代中期の竪穴建物跡3棟、土坑1基、柱穴様ビット3基、時期不明の焼土遺構1基が確認された。このうち竪穴建物跡は調査区南西側の平坦地から緩斜面地にかけて分布する。

SI12竪穴建物跡は、長径3.3m、短径3.1mの楕円形に掘り込まれ、埋土からは大木9式期の土器や石器、剥片が出土した。床面では壁溝、柱穴、炉跡を確認した。炉跡は、石囲部と前庭部から構成される長さ1.5m、最大幅1.1mの複式炉で、床面南側に構築される。炉を構成する礫には磨石や敲石といった礫石器の転用が認められる。

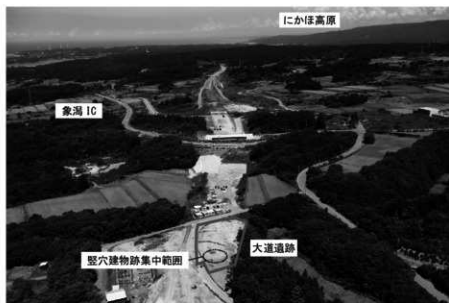
SI13竪穴建物跡は、長径4.5m、短径4.0mの楕円形で、床面では壁溝、柱穴、炉跡を確認した。炉跡は、石囲部と前庭部から構成される長さ1.7m、最大幅0.95mの複式炉で、床面の中央から南側に構築される。埋土からは大木9式期の土器や石器が出土した。特に石鏃とその素材が15点と多く確認されており、黒曜石の剥片や砕片も確認されている。炉の形態から縄文時代中期後葉と推定される。

調査区南西側では竪穴建物跡の他に土器や石器を含む土の広がりを確認した。石器には、黒曜石の剥片や砕片も含まれ、遺跡内で黒曜石を用いた石器製作が行われていた可能性が高い。

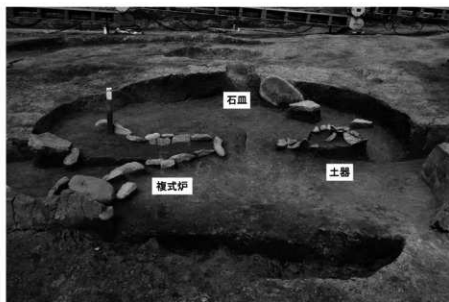
今回の調査では、調査区南西側で竪穴建物跡を確認しており、集落は調査範囲の西側へ広がっていたと推定される。

今後は、神田遺跡や上熊ノ沢遺跡といった周辺での発掘調査の成果を合わせて、当地域における縄文時代中期の集落の様相について検討を進めていきたい。

大道遺跡全景
(南西から)



SI12竪穴建物跡
遺物出土状況
(南東から)



SI13竪穴建物跡
(南から)



(4) 寺沢遺跡

①調査要項

所在地	秋田県にかほ市象潟町小砂川字寺沢
調査期間	令和5年7月14日～9月15日
調査面積	2,000㎡
遺跡の時代	縄文時代、平安時代
遺跡の性格	狩猟場（縄文時代）、生産遺跡（平安時代）、散布地（中近世）
事業名	国道7号遊佐象潟道路事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調査担当	結城智、矢尾健

②調査概要

検出遺構		主な出土遺物
縄文時代	陥し穴状遺構1基	縄文時代 土器 石器
平安時代	焼土遺構4基 土坑2基	平安時代 土師器 須恵器 中近世 陶磁器
	柱穴様ピット69基 性格不明遺構2基	

寺沢遺跡は、JR羽越本線小砂川駅から南に約1.5km、山形県境まで1.5kmの距離にある。鳥海山山麓の西裾部、標高約40～55mの北向き斜面に立地している。遺跡の西側約0.4kmには古代の製塩関連遺跡であるカウヤ遺跡が所在している。調査対象面積は3,300㎡であり、このうち、今年度は2,000㎡を調査した。

調査の結果、縄文時代と平安時代の遺構・遺物を検出した。遺構は全て調査区中央部からやや北側の標高約42mの平坦地に集中している。調査区内の平坦地北側で検出した埋没沢は、鳥海山の土石流に由来する大量の巨礫で埋まっていた。土石流は、堆積状況から数回あったと推測され、巨礫の間から土師器や須恵器が出土していることから、付近にある古代の遺跡を巻き込んでこの場所に流れ込んだと考えられる。

出土遺物は、平安時代の土師器と須恵器が主体であり、他に少量の縄文土器や剥片石器、中近世の陶磁器が出土した。出土した土師器は外面に粘土紐の積み上げ痕を残し、内面全体と口縁部に刷毛目調整が見られ、長時間火を受けたため全体的に赤変している。同様の特徴を有する土器はカウヤ遺跡でも出土しており、製塩土器と考えられる。焼土遺構は、同じ場所でも繰り返し火熱の影響を受けたため、著しく硬化している。本遺跡を含めた周辺一帯では、平安時代に製塩が盛んに行われていたと推測される。

今回の調査で、寺沢遺跡は製塩を行っていた生産遺跡であることが分かった。鉄滓が1点出土しているため、鍛冶なども行われていた可能性がある。また、柱穴様ピットの埋土の観察から、土石流以前にも何らかの活動をしていたと考えられ、古代の人々は災害にあいながらも、この場所を繰り返し使っていることが分かった。

寺沢遺跡全景
(東から)



出土した製塩土器
(左が外面、右が内面)



鳥海山由来の巨礫
検出状況
(南西から)



(5) 立浪遺跡

①調査要項

所在地	秋田県湯沢市下院内字立浪42外
調査期間	令和5年6月12日～11月22日
調査面積	4,000㎡
遺跡の時代	縄文時代前期、晩期、弥生時代
遺跡の性格	集落跡（縄文時代前期）、墓域（縄文時代晩期～弥生時代）
事業名	国道13号横堀道路建設事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
調査担当	小松和平、千葉学

②調査概要

検出遺構	主な出土遺物
縄文時代 陥し穴状遺構1基 時期不明 柱穴様ピット23基	縄文時代 縄文土器 石器（石匙、石槍、石鏃、 石鏃、石錐、磨製石斧等） 土製品、石製品 弥生時代 弥生土器、剥片石器

立浪遺跡はJR奥羽本線院内駅から東に1.4km、烏帽子山地の北東端に立地する。調査区は南から北へ向かって低くなる尾根とその東西側斜面及び低地で、調査区内の標高は167～182mである。今年度は東側斜面とその下に広がる低地部を調査した。

調査の結果、縄文時代の陥し穴状遺構1基、土坑5基、時期不明の柱穴様ピットが23基検出された。

遺構は、尾根の頂部から肩部または低地部に集中する。低地部からは長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.6mの土坑が検出され、埋土上面からは縄文時代晩期と考えられる土器が出土した。この土坑は規模や形態から土坑墓と考えられる。昨年度は尾根頂部で晩期の土坑墓が検出されており、当該期には低地部も墓域として利用されていたことが分かった。

斜面地からは18ℓコンテナ約150箱分の土器・石器が出土した。土器は縄文時代前期の大木2b～3式が主体を占め、それらと共に多くの石器が出土した。石器は石皿等、大型の礫石器が目立つ。東側斜面では、中腹から裾部にかけて縄文時代前期の包含層や地山由来の黄褐色土と縄文時代晩期の包含層が交互に堆積していた。また、倒木痕も多く検出され、地すべりも起きていたと考えられる。

2年にわたる調査の結果、縄文時代前期には尾根をはさんだ東西斜面を石器製作場や捨て場として、縄文時代晩期～弥生時代には尾根頂部を中心に墓域として利用していたと考えられる。縄文時代前期の遺物は多量に出土したが、生活痕跡を示す遺構が希薄であるため、当該期の居住域は調査区外にあると推測される。今後、遺構や遺物等の検討を通して本遺跡の性格を明らかにしていきたい。

低位面土坑（東から）



大型石皿出土状況
（東から）



斜面中腹から裾部断面
（南から）



(6) 福島遺跡

①調査要項

所在地	秋田県雄勝郡羽後町足田字福島80ほか
調査期間	令和5年9月12日～11月30日
調査面積	3,220㎡
遺跡の時代	縄文時代
遺跡の性格	集落跡、墓域、捨て場
事業名	交通安全対策事業（通学路対策）主要地方道大曲大森羽後線
事業関係機関	秋田県雄勝地域振興局建設部
調査担当	結城智、矢尾健

②調査概要

検出遺構		主な出土遺物
縄文時代 フラスコ状土坑25基	土器埋設遺構5基	縄文時代 土器
土坑11基	焼土遺構1基	石器
柱穴様ピット73基	性格不明遺構1基	

福島遺跡は、JR十文字駅から西へ約11km、道の駅「うご」から北へ約4.1km、西馬音内川と新町川に挟まれたひばり野台地の北端、標高約62mの丘陵に立地する。本遺跡は、昭和30年代の故山下孫継による調査の結果、縄文時代と平安時代の複合遺跡であることが確認されている。平成4年には羽後町教育委員会により調査区北東隣接地などが発掘調査され、縄文時代中期・晩期の土器や石器、少量の須恵器や土師器が見つかった。今回の発掘調査地は、中央部の標高が最も高く、そこから北と南に向かって緩斜面が続く場所である。

調査の結果、縄文時代中期前半の遺構・遺物が検出された。調査区南端には埋没沢があり、そこから多量の大木8a式を中心とする土器片が出土した。埋没沢は、縄文人が使わなくなった土器や石器を廃棄するための捨て場として使われたと考えられる。この捨て場から北東20m程の緩斜面では、土器埋設遺構と柱穴様ピット群、焼土遺構が検出された。土器埋設遺構は、底部を意図的に打ち欠いた土器が正位に埋められていたものである。焼土遺構は、周囲にピット群もあることから、居住施設の一部であった可能性がある。調査区で最も標高の高い場所から南北の緩斜面にかけてフラスコ状土坑が25基検出された。これらは食料を貯蔵するための穴と考えられ、最も規模の大きいもので開口部1.2m、深さ2m、底面直径2.7mである。フラスコ状土坑はすべて人為的に埋め戻されており、土器を埋納したり、埋め戻した後に火を焚く等の廃絶儀礼を行ったと考えられるものもある。

今回の調査区では堅穴建物跡が検出されなかったことから、集落は調査区西側の沢を挟んだ緩斜面や、調査区から続く東側の段丘上に所在すると考えられる。秋田県北部では縄文時代中期のフラスコ状土坑が多数検出されることはあるが、県南部においては極めて少ない。また、秋田県内で大木8a式期の土器がまとまって出土するのは珍しく、県南部では稀少な縄文時代中期前半の集落の一部を確認することができたと言える。

福島遺跡全景
(北西から)



福島遺跡遺構分布



フラスコ状土坑断ち割り
状況
(東から)



(7) 坂三塔遺跡

①調査要項

所在地	秋田県横手市十文字町越前字坂三塔
調査期間	令和5年9月19日～11月9日
調査面積	850㎡
遺跡の時代	縄文時代・古代・中世・近世
遺跡の性格	集落跡
事業名	一般県道植田平鹿線建設事業
事業関係機関	秋田県平鹿地域振興局建設部
調査担当	巴亜子、櫻庭悦央

②調査概要

	検出遺構	主な出土遺物
縄文時代	フラスコ状土坑2基	縄文時代 土器(晩期) 石器(剥片) 礫石器(凹石・磨石)
	土坑1基	
	陥し穴状遺構2基	
古代	溝跡3条	古代 須恵器
	溝跡1条	
中世	カマド状遺構1基	近世 陶器(播り鉢)
中世以降	溝跡2条	
時期不明	溝跡6条 柱穴様ビット65基	

坂三塔遺跡は、湯沢横手道路十文字ICから西へ約4.5km、標高約65mの皆瀬川扇状地に立地する。遺跡の南西約300mには縄文時代晩期の二ツ橋遺跡が、北1kmには中世城館である鍋倉城跡が位置する。

調査の結果、縄文時代の遺構として、フラスコ状土坑、土坑、陥し穴状遺構、溝跡が確認された。フラスコ状土坑は2基見つかった。そのうち北側のSKF18は、底径0.9mの円形で、深さが1.1mあり、埋土中から縄文時代晩期の浅鉢形土器と深鉢形土器の底部が出土した。

古代の遺構は、溝跡が3条確認され、そのうちSD14は調査区中央に位置する。幅0.4m、深さ0.4mの溝が半径2.3mの半円状に巡り、調査区外へと延びており、円形周溝墓の可能性がある。

中世の遺構は、溝跡1条、カマド状遺構1基等が確認された。このうちカマド状遺構は長軸2.4m、短軸0.9mの東西方向に長い楕円形を呈する。西壁面には被熱による焼土が確認された。そのほか時期不明の溝跡が調査区中央から北側にかけて6条確認された。いずれも東西方向に延び、全体形は不明である。

調査区からは縄文・古代・中近世の遺構・遺物が確認され、通時的な利用が認められた。今後、各時代の活動の実態を明らかにし、特に縄文時代の場の使われ方について検討を進めていきたい。

坂三塔遺跡全景
(西から)



SKF18フラスコ状土坑
縄文土器出土状況
(西から)



SD14溝跡完掘状況
(西から)



(8) 本荘城跡

①調査要項

所在地	秋田県由利本荘市尾崎
調査期間	令和5年9月6日～11月6日
調査面積	194㎡
遺跡の時代	縄文時代、平安時代、中世、近世
遺跡の性格	散布地（縄文時代・平安時代・中世）、近世（城郭）
事業名	国道107号建設事業
事業関係機関	秋田県由利地域振興局建設部
調査担当	山村剛、山田祐子、村上義直

②調査概要

検出遺構	主な出土遺物
近世 空堀 1条	縄文時代 縄文土器、石器（石錐、磨製石斧、スクレイパー、敲石、剥片） 平安時代 土師器 中～近世 陶磁器（珠洲系、肥前）、銭貨

本荘城跡は、現在の本荘公園、由利本荘市役所の南に隣接した標高30m、子吉丘陵先端にある独立丘陵、通称尾崎山を中心とした範囲に広がっている。台地上に本丸と二の丸、市役所を含めた北側平坦地に三の丸を置き、さらに北の子吉川に向かって城下町を広げていた。

本荘城跡は中世から存在し、関ヶ原の戦い後に、近世城郭として最上氏が改修、家臣である桶岡（本城）氏が由利郡に入部した。その後、最上氏改易により元和8（1622）年に廃城となるが、翌年六郷氏が入部・再建し、城主として、明治時代まで当地を治めることになった。

平成13～19年にかけて、由利本荘市によって本丸及び三の丸の一部が調査され、本丸では弓櫓跡や板塀等の他、一部中世の建物跡や井戸跡などが、三の丸では当時のゴミ穴が検出されている。

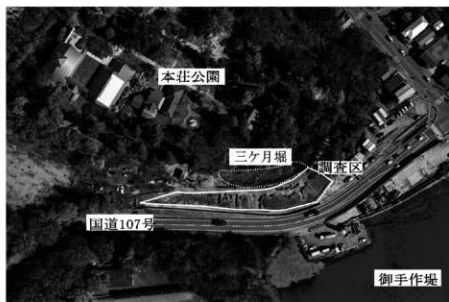
今回、国道107号に隣接する二の丸を中心とした4,200㎡のうち、194㎡を調査した。

調査区は平坦地である郭、それに付随する斜面に分かれる。郭北側には現在も水を湛える三ヶ月堀がある。斜面を含めた郭東側の一部を掘り下げたところ、盛土は0.8～1.6m、場所によってはさらに土を盛って平坦地を造成していた。また、堀に隣接する範囲を地山まで掘り下げたところ、最大幅1.8m、長さ18m以上の空堀が東西に走っていた。埋土から出土した17世紀代前半の波佐見（長崎県）産の青磁から、空堀は廃城時か六郷氏再建期に埋められたと推定される。これにより、本城氏段階では、中世の名残を残す空堀があった可能性が高いことが判明し、慶長（1596～1615年）末～元和期（1615～1624年）を描いた「本城地下絵図」では、三ヶ月堀を含む水堀が二の丸南側から西側の大半を占め、調査結果と絵図では様相が異なっていることが判明した。

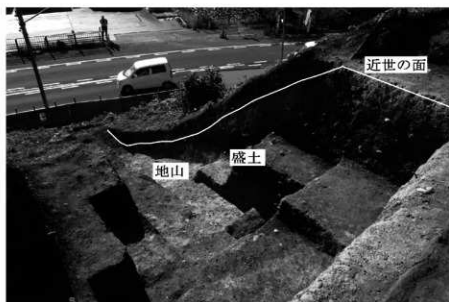
それ以降の絵図では、二の丸全体に塀が立ち並ぶが、調査でその痕跡は未確認である。出土遺物も空堀の埋め戻し土や盛土から縄文土器や石器、平安時代の土師器の他、中近世の陶磁器が数点出土するのみで、近世期の活動を示す遺物はわずかしかない。これは、人々の在番する施設がないことが、遺物の少なさに影響していると考えられる。

今回の未調査分は、来年度に調査を行う予定である。近世を通じた郭の使われ方がより明確になるとともに、盛土の観察から当時の土木技法などが、明らかになると思われる。

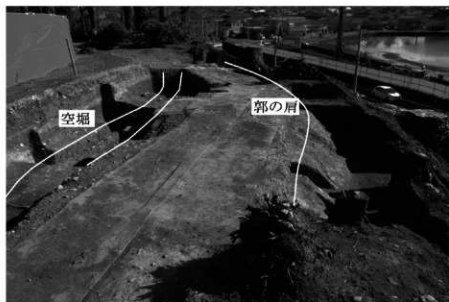
空中写真（上が北東）



盛土（東から）



横堀及び郭肩部
（西から）



第2節 活用・普及事業

1 活用・普及事業一覧表

事業名は簡略化

	事業名	主な内容	開催時期など	対象
見学	遺跡現地見学会	大巻Ⅰ遺跡	8/ 5	一般
		福島遺跡	10/21 *中止	一般
展	企画展	HOTTA-『弘田柁跡』発掘半世紀-	9/23~11/ 5	一般
	企画コーナー展	埋文職員の自由研究	5/13~ 3/31	一般
	あきた埋文 出張展示	これってナンダ? 謎の出土物たち	7/15~ 8/15	一般
示		土器に生ける秋の草花展	9/30~10/ 9	一般
		あきた遺跡発掘最前線! 2023	3/ 2~ 3/12	一般
講演会・講座	講演会	出土文字資料から見た弘田柁跡	10/14	一般
	あきた埋文 考古学セミナー	出羽国の対蝦夷政策最前線・弘田柁跡	7/ 8	一般
		出羽国の対蝦夷政策最前線・弘田柁跡	9/ 8	一般
		遺跡から見た白神山地区西南麓の原始・古代	11/ 3	一般
	あきた埋文 金曜講座	六郷扇状地と縄文遺跡群	6/ 2	一般
		弘田柁跡出土の文字資料	7/ 7	一般
		秋田市大又Ⅱ遺跡の発掘成果と古代官衙	8/ 4	一般
		喜! 奇! 機! 一遺跡ハッケン伝-	9/ 1	一般
		雄勝城、その所在地と実像に迫る	10/ 6	一般
		日本海地域における鉄鍋の生産と流通	11/10	一般
		世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」とあきたの縄文遺跡	12/ 1	一般
	遺跡からたどる秋田県の旧石器時代	1/12	一般	
	キノコ形土製品と耳形土製品の謎	2/ 2	一般	
	発掘調査報告会	今年度の県内発掘調査成果報告	3/ 9	一般
	県庁出前講座	発掘調査成果の講座等	通年	一般
体験教室	オープンラボ	農業科学館バラフェスタ	6/ 3	小〜一般
		さとびあ体験教室 縄文土器づくり	7/23	小/ 親子
		弘田柁跡ふるさと体験ワークショップ	7/26	小/ 親子
		さとびあ体験教室 縄文デイキャンプ	10/ 3 *中止	一般
		農業科学館オータムフラワーフェスタ	10/28	小〜一般
	各種体験教室	通年	小〜一般	
弘田柁跡関連	弘田柁跡の歩き方	7/29	小/ 親子	
学校・研修等	セカンドスクールの利用	センター内・出土品見学、体験学習、出前授業等	通年	小/ 中/ 高
	インターンシップ 職場体験	出土品整理作業や普及活用事業等の職場体験	通年	小/ 中/ 高/ 大
	博物館実習	考古資料の取り扱い、展示等	8/21~ 8/25	大
	中堅教諭等資質向上研修	施設・出土品見学、出土品整理作業体験等	7/27~ 8/ 1	教員
貸出	貸し出しキット等	体験キット、映像資料等の貸し出し	通年	学校等
	資料貸し出し	収蔵資料の貸し出し、掲載許可	通年	一般
	レファレンス	県内の埋蔵文化財等に関する質問受付	通年	一般

2 遺跡現地見学会

安全が確保された遺跡において発掘調査中の適切なタイミングで現地見学会を実施し、調査成果を県民に公開した。

(1) 大巻I遺跡	期日：令和5年8月5日(土)	会場：秋田市	来場者：21人
(2) 福島遺跡	期日：令和5年10月21日(土)	会場：羽後町	※雨天中止

3 展示

(1) 常設展

これまでに発掘調査した遺跡の資料から特徴的なものを厳選し、旧石器時代から江戸時代まで時代順に展示した。

	開館時間	見学可能箇所(※は職員のご案内によって可能)
平日	9:00～16:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室

(休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日)

(2) 企画展

県教育庁弘田柵跡調査事務所の半世紀にわたる調査成果をいかして、本県や東北地方の古代史における弘田柵跡の重要性等を一般県民に分かりやすく伝えることを目的に実施した。期間中多数の来場者が訪れ、古代の弘田柵に思いを巡らせながら柵木や漆紙文書など公開が限られている資料を観覧していただいた。

期間：令和5年9月23日(土)～11月5日(日)

会場：秋田県立博物館 企画展示室 来場者：5,317人

展示構成：序章 「弘田柵跡のアウトライン」

第1章 「弘田柵跡の発見」

第2章 「弘田柵跡の変遷」

第3章 「研究者は語る—弘田柵跡を巡る学説史—」

第4章 「弘田柵跡を巡る遺跡」

第5章 「弘田柵とはなにか」

終章 「弘田柵跡のその後と現在、そして未来へ」



展示状況



展示状況

(3) 企画コーナー展

特別展示室の4分の1を利用してテーマ展示を実施した。

テーマ：『埋文職員の自由研究』

期 間：令和5年5月13日（土）～令和6年3月31日（日）

来場者：1,013人

埋蔵文化財に対する理解・浸透を図るために「埋文職員の自由研究」を開催し、各職員がそれぞれの研究分野で解明した研究成果を広く県民に公開した。



展示状況

(4) あきた埋文出張展示

埋蔵文化財センター以外の会場で当センター収蔵資料やその地域の埋蔵文化財に関する最新情報などを展示し、地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めた。

『これってナンダ？謎の出土物たち』

期間：令和5年7月15日（土）～8月15日（火）

会場：秋田県立図書館 来場者：4,834人

「これってナンダ？謎の出土物」をタイトルに、埋蔵文化財センター収蔵資料から、使い方が分かりにくいものや、全く用途が不明なものを展示。来場者の思考を喚起し、興味をもって観覧いただいた。



展示状況

『土器に生ける秋の草花展』

期間：令和5年9月30日（土）～10月9日（月）

会場：秋田県立農業科学館ホワイエ 来場者：1,612人

農業科学館のボランティアの方々により、センターで所蔵する土器に秋を感じさせる草花を生けて展示した。今年度は池内遺跡（大館市）、杉沢台遺跡（能代市）、中小坂遺跡（小坂町）、和田Ⅲ遺跡（三種町）、高野遺跡（仙北市）、堀量遺跡（湯沢市）、江原嶋1遺跡（横手市）、ヲフキ遺跡（にかほ市）、八木遺跡（横手市）、堀ノ内遺跡（湯沢市）、戸平川遺跡（秋田市）、虫内Ⅰ遺跡（横手市）の縄文土器を使用した。来場者からは、土器と草花の美しいアレンジとその見せ方に好評をいただいた。



展示状況

『あきた遺跡発掘最前線！2023』

期間：令和6年3月2日（土）～3月12日（火）

会場：秋田県立図書館 来場者：1,702人

秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会にあわせ、秋田県教育委員会及び市町村教育委員会、民間団体により今年度発掘調査された遺跡の出土品を展示公開した。従来は報告会当日のみの展示であったが、昨年度と同様により多くの方に調査状況や埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうため、報告会前後の期間に設定した。準備や運営にあたり、県立図書館や各市町村及び民間の調査機関に協力をいただいた。



展示状況

4 講演会・講座

(1) 講演会

当センター主催で、県内の考古学に関わる講演会を開催した。

開催日：令和5年10月14日（土） 会場：秋田県立博物館 参加者：90人

演題：「出土文字資料から見た弘田柵跡」

講師：国立歴史民俗博物館 教授 三上喜孝氏

三上氏は、「木簡から明らかになった弘田柵の行政機構」、「弘田柵関連の祭祀遺跡か～厨川谷地遺跡出土木簡～」、「弘田柵跡出土漆紙文書にみる地域支配」、「秋田城・小勝（雄勝）城との関係を示す漆紙文書の発見」、「弘田柵が担った機能とは何か」といった視点から自身の調査体験を紹介し、豊富な資料を用いながら講演した。講演をとおして、城柵遺跡から出土している木簡や漆紙文書といった文字資料が語りかけるものや文字資料から弘田柵とは何かを考えてもらった。



会場の様子

(2) あきた埋文考古学セミナー

本県の埋蔵文化財への理解を深めるためのセミナーを開催した。実施したセミナーは次のとおりである。

① 「出羽国の対蝦夷政策最前線・弘田柵跡」

開催日：令和5年7月8日（土） 会場：羽後町多目的研修集会施設（活性化センター）

参加者：22人

講師：吉川耕太郎（調査班副主幹）

② 「出羽国の対蝦夷政策最前線・弘田柵跡」

開催日：令和5年9月8日（金） 会場：秋田市農山村地域活性化センターさどびあ

参加者：15人

講師：吉川耕太郎（調査班副主幹）

- ③「遺跡から見た白神山地西南麓の原始・古代」
 開催日：令和5年11月3日（金） 会場：八峰町峰浜地区文化交流センター「峰栄館」
 参加者：32人
 講師：吉川耕太郎（調査班副主幹）



考古学セミナー①（羽後町）の様子



考古学セミナー③（八峰町）の様子

（3）あきた埋文金曜講座

本県の埋蔵文化財への理解を深めるために考古学や歴史学、民俗学などを題材に学ぶ。本年度は、埋蔵文化財センター第1研修室を会場に令和5年6月から令和6年2月にかけて、毎月第1または第2金曜日に開催した。

- ①「六郷扇状地と縄文遺跡群」
 開催日：令和5年6月2日（金）
 参加者：15人 講師：吉川耕太郎（調査班副主幹）
- ②「弘田柵跡出土の文字資料」
 開催日：令和5年7月7日（金）
 参加者：16人 講師：谷地薫（弘田柵跡調査事務所文化財主査）
- ③「秋田市大又Ⅱ遺跡の発掘成果と古代官衙」
 開催日：令和5年8月4日（金）
 参加者：15人 講師：眞井田宏彰氏（秋田市観光文化スポーツ部文化振興課主席主査）
- ④「喜！奇！機！—遺跡ハッケン伝—」
 開催日：令和5年9月1日（金）
 参加者：13人 講師：安田創（秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室文化財主事）
- ⑤「雄勝城、その所在地と実像に迫る」
 開催日：令和5年10月6日（金）
 参加者：22人 講師：高橋学氏（雄勝城・駅家研究会代表）
- ⑥「日本海地域における鉄鍋の生産と流通」
 開催日：令和5年11月10日（金）
 参加者：20人 講師：磯村亨（埋蔵文化財センター所長）
- ⑦「世界遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』とあきたの縄文遺跡」
 開催日：令和5年12月1日（金）
 参加者：18人 講師：新海和広（資料管理活用班副主幹）

⑧「遺跡からたどる秋田県の旧石器時代」

開催日：令和6年1月12日（金）

参加者：13人 講師：吉川耕太郎（調査班副主幹）

⑨「キノコ形土製品と耳形土製品の謎」

開催日：令和6年2月2日（金）

参加者：17人 講師：小林克氏（日本考古学協会会員）



金曜講座①の様子



金曜講座⑦の様子

（4）あきた県庁出前講座

県民の要請に応じて県職員が講師を務め、さまざまな情報提供等を通じて県事業等への理解を深めていただくとともに、生涯にわたる多様な学習機会の充実を図ることを目的としている。埋蔵文化財センターでも特長をいかした講座を行った。

①講座番号：195 講座名：「考古学体験Ⅰ」

開催日：令和5年6月5日（月） 会場：秋田市にぎわい交流館

参加者：7人

講師：柴田浩一（資料管理活用班学芸主事） 堀川昌英（資料管理活用班学芸主事）

②講座番号：197 講座名：「出土品の扱い方・見方」

開催日：令和5年6月17日（土） 会場：秋田県立近代美術館

参加者：23人

講師：新海和広（資料管理活用班副主幹）

③講座番号：194 講座名：「縄文クラフト講座」

開催日：令和5年7月1日（土） 会場：能代市中央公民館

参加者：8人

講師：柴田浩一（資料管理活用班学芸主事） 堀川昌英（資料管理活用班学芸主事）

④講座番号：192 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」

開催日：令和5年7月30日（日） 会場：湯沢市役所 横堀中屋敷遺跡 立浪遺跡 白館跡
岩井堂洞窟

参加者：14人

講師：吉川耕太郎（調査班副主幹）

- ⑤講座番号：194 講座名：「縄文クラブ講座」
開催日：令和5年9月7日（木）会場：秋田県立明徳館高等学校 スペース・イオ
参加者：10人
講師：柴田浩一（資料管理活用班学芸主事） 堀川昌英（資料管理活用班学芸主事）
- ⑥講座番号：192 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和5年12月6日（水）会場：仙北市立神代中学校
参加者：101人
講師：新海和広（資料管理活用班副主幹） 柴田浩一（資料管理活用班学芸主事）
堀川昌英（資料管理活用班学芸主事）
- ⑦講座番号：192 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和6年1月29日（月）会場：大曲プラザたつみ
参加者：13人
講師：新海和広（資料管理活用班副主幹） 堀川昌英（資料管理活用班学芸主事）
- ⑧講座番号：192 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和6年2月4日（日）会場：秋田の歴史を学ぶ会
参加者：8人
講師：吉川耕太郎（調査班副主幹）
- ⑨講座番号：192 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和6年3月17日（日）会場：能代市中央公民館
参加者：88人
講師：谷地薫（弘田柵跡調査事務所文化財主査）

（5）埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会、民間団体の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から発掘調査報告会を開催している。

令和元・2・3年度と新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、令和4年度から通常開催を再開した。今年度は令和6年3月9日（土）、秋田県生涯学習センターを会場として開催した。参加者は140人で、配布資料やスライドを見たり、報告を聞きながらメモを取るなど関心の高さを感じた。報告会にあわせて、出張展示「あきた遺跡発掘最前線！2023」を県立図書館で開催した。

【報告予定内容】

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 大巻Ⅰ遺跡（秋田市） | 中央調査班文化財主査 武藤祐浩 |
| 2 ヲフキ遺跡（にかほ市） | 調査班文化財主事 大上立朗 |
| 3 大道遺跡（にかほ市） | 中央調査班文化財主任 巴亜子 |
| 4 福島遺跡（羽後町） | 調査班文化財主事 結城智 |
| 5 十足馬場南遺跡（横手市） | 雄勝城・駅家研究会 高橋学氏 |
| 6 史跡弘田柵跡（大仙市・美郷町） | 県教育庁弘田柵跡調査事務所文化財主査 谷地薫 |
| 7 蟹沢遺跡（横手市） | 横手市教育委員会 藤原正大氏 |

- | | | | |
|----|--------------------|-----------|-------|
| 8 | 行ヒ森遺跡（にかほ市） | にかほ市教育委員会 | 斎藤和葉氏 |
| 9 | 金沢城跡（横手市） | 横手市教育委員会 | 藤原正大氏 |
| 10 | 史跡檜山安東氏城跡檜山城跡（能代市） | 能代市教育委員会 | 播摩芳紀氏 |
| 11 | 大館城跡（大館市） | 大館市教育委員会 | 馬庭和也氏 |



会場の様子



報告の様子

（6）講座の動画配信

昨年度に引き続き、当センターで行われた講座の動画を記録した。当センターの調査研究成果の普及を図り、YouTube「あきた埋文チャンネル」で配信することで、広く県民が活用できる機会を提供した。

撮影動画

①あきた埋文金曜講座

第2回「払田柵跡出土の文字資料」

講 師：秋田県教育庁払田柵跡調査事務所 文化財主査 谷地薫

公開日：令和6年2月19日（月）

②あきた埋文金曜講座

第6回「日本海地域における鉄鍋の生産と流通」

講 師：埋蔵文化財センター 所長 磯村亨

公開日：令和6年3月19日（火）

③あきた埋文金曜講座

第7回「世界遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』とあきたの縄文遺跡」

講 師：埋蔵文化財センター 副主幹 新海和広

公開日：令和6年4月12日（金）

5 体験教室

(1) 主な体験メニューと概要

目的	活動名	主な内容
縄文の暮らしに親しむ	コースターづくり (縄文染め)	様々な縄文文様や土偶などの形にくり抜いた紙型を麻布に被せ、マジックペンで染め付けていくものである。個人のセンスで様々な色合いの作品に仕上がる。
	弓矢体験	竹刀の廃材を利用した竹材に、たこ糸を張って作った弓で、動物がプリントされた的を射る体験である。的には、縄文人が食べていた様々な動物がプリントされ、体験意欲をかき立てる。
	縄文衣装着用体験	麻布で作った縄文衣装を着用して着心地を確かめてみる体験である。
	火起こし体験	火きり杵(棒)と火きり臼(板)を利用した舞いきり法を中心に実施している。発火にいらなくても、成功体験が味わえるよう、①摩擦による発煙、②火だねづくり、③火だねからの発火、という3段階のチャレンジとして取り組んでもらうことにしている。また、もみきり法なども紹介している。
	ミニ土器 レリーフづくり	気軽に施文体験ができるよう、型枠に粘土を埋め込んで作ったミニ土器の表面(半面)を各種原体で施文し、オリジナルの土器レリーフを作るものである。
	縄文原体づくり	縄文土器や土偶に文様を施すための縄文原体を紙ひもで作成り、粘土に文様を施してみる体験である。
	石器づくり	珪質頁岩や黒曜石を用いて、原石の打ち割りから矢尻やナイフの仕上げまで参加者のレベルに合わせて体験するものである。
	勾玉づくり	勾玉についての事前レクチャーをしたのち、勾玉キットを用いて製作する体験である。
	整理作業のおもしろさを知る	拓本体験
土器復元体験		細かなパーツに分解されたレプリカの土器を文様や割れ口などを手がかりにして組み立て、復元を目指す。

(2) オープンラボ

依頼者側と内容について打ち合わせを行い、対策を万全に期した上で次のとおり実施した。

体験教室（児童～一般）

- ①開催日：令和5年6月3日（土） 会場：秋田県立農業科学館
②開催日：令和5年7月23日（日） 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
③開催日：令和5年7月24日（月） 会場：秋田市立桜小学校
④開催日：令和5年7月26日（水） 会場：史跡弘田柵跡
⑤開催日：令和5年7月31日（月） 会場：田沢湖公民館（仙北市）
⑥開催日：令和5年10月3日（火） 会場：山の学校北の風（秋田市） ※中止
⑦開催日：令和5年10月28日（土） 会場：秋田県立農業科学館
⑧は参加人数不足のため中止とした。

参加者：①61人、②15人、③26人、④14人、⑤12人、⑦65人

内 容：①弓矢、縄文コースターづくり ②縄文時代の学習、土器づくり ③縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢、火起こし ④火起こし、弓矢 ⑤土器の拓本づくり、縄文コースターづくり ⑦弓矢、縄文コースターづくり



弓矢体験の様子



縄文コースターづくり体験の様子

(3) 弘田柵跡の歩き方

開催日：令和5年7月29日（土）
会 場：埋蔵文化財センター・弘田柵跡
参加者：17人
講 師：酒井浩氏（森林インストラクター）
吉川耕太郎（調査班副主幹）

史跡公園としての弘田柵跡に親しみ、弘田柵跡を取り巻く歴史と自然を体感しながら学ぶ活動を2時間にわたり実施した。草花の観察やそれに関わる短歌の紹介、遺跡の見学などを通して、史跡内の自然や平安の人々の生活と想い、蝦夷と朝廷との関わりについて学んだ。学校の夏季休業中ということもあって小学生を中心とした親子の参加が多く、活況を呈した。



活動の様子

6 学校利用・研修等

(1) セカンドスクールの利用

セカンドスクールの利用は、県教育庁生涯学習課が推進する事業で、教育施設等の人的・物的機能を十分に活用し、学校と教育施設等が一体となって、郷土の自然や文化との触れ合い体験・共同生活体験、各教科や総合的な学習の時間等の取組を複合的に実施する利用方法である。当センターでは、考古資料に触れる体験を中心に、社会科の学習や総合学習等をサポートしている。最近では歴史の学習に関する内容のほかに、センターの仕事内容や専門職員になるための進路などキャリア教育に関する内容も扱っている。また、来所利用に加え、センター職員が学校に資料等を持参して行う出前授業も増えている。

①利用状況

	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
利用件数	27件	3件	7件	0件	37件
利用人数	702人	80人	61人	0人	843人

②活動の具体例

出土品に触れてその特徴や用途などを考える

遺跡から見つかった本物の出土品（土器や石器など）に触れたり、観察しながら特徴や用途を考える。

施文体験

さまざまな施文用具を使い、粘土に縄文土器や土偶に見られる文様をつけてみる。

施設見学

特別展示室や整理作業室、収蔵庫で出土品や整理作業を見学する。

出前授業

縄文時代を中心に出土品を展示し、手で触れて肌で感じたり、観察することをとおして各時代の学習を支援したり、地域の遺跡、文化財について紹介する。



石器観察の様子



展示室見学の様子

(2) インターンシップ・職場体験

- | | |
|------------------------------------|--------------|
| ①期間：令和5年7月24日（月）～7月26日（水） | 会場：埋蔵文化財センター |
| 生徒：秋田県立湯沢翔北高等学校2年生1人 | |
| ②期間：令和5年7月25日（火）～7月27日（木） | 会場：埋蔵文化財センター |
| 児童：美郷町管内の小学生5・6年生9人（ミズモの郷キャリアスクール） | |

- ③期間：令和5年8月1日（火）～8月3日（木） 会場：埋蔵文化財センター
生徒：秋田県立大曲高等学校2年生2人・秋田県立角館高等学校2年生2人
- ④期間：令和5年9月5日（火）～9月7日（木） 会場：埋蔵文化財センター
生徒：秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校2年生1人

インターンシップ・職場体験は、埋蔵文化財センターの仕事の体験を通じ、勤労観や職業観を育むことを目的としている。埋蔵文化財保護行政や埋蔵文化財センターの概要・役割に関する講話の後、施設見学や資料管理活用班のイベント業務補助、セカンドスクールメニュー体験、遺跡出土物の洗浄等の整理作業、弘田柵跡案内人体験等を行った。



遺物の洗浄

(3) 博物館実習

- 期間：令和5年8月21日（月）～8月25日（金）
会場：埋蔵文化財センター・立浪遺跡発掘現場
盛岡大学文学部日本文学科4年生1人

全体を通じ「教育資源としての埋蔵センターの活用について」を考察することをテーマとした。石器の洗浄と注記、図書の収蔵や収蔵庫内の資料管理、資料撮影とデータ化及びセカンドスクールメニューの体験、新たな「縄文コースター」デザインの考案など、センター内での整理作業と資料管理活用業務の実習を行った。また高校生対象の発掘体験学習やベアール歴史講座に参加しながらイベントの運営を実地体験した。



発掘体験学習の様子

(4) 中堅教諭等資質向上研修

- 期間：令和5年7月27日（木）・31日（月）
・8月1日（火）
会場：埋蔵文化財センター・弘田柵跡発掘現場
仙北市立角館中学校教員1人

中堅教諭等資質向上研修では、発掘調査や整理作業の体験、文化財等を用いた教材開発、探究活動のデザイン等を行う。

今回は土器の洗浄等の整理作業体験を行い、弘田柵跡の発掘作業に丸一日加わった。また展示室の活用と弘田柵跡の探索に時間をとり実物とじっくり対面することで、遺跡・遺物に対する見識が高まることを期待した。



弘田柵跡発掘作業

7 貸し出し

(1) 貸し出しキット等

学校などに教材として活用できる次のキットやDVDの貸し出しを行った。

狩りと漁キット 土器資料キット 調理キット 縄文土器複製キット 竪穴住居キット
原体・粘土キット 縄文衣装キット 火起こしキット 紹介DVD「ようこそ秋田の古代」

古代体験キット・ビデオ・火起こしの貸し出し実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
キット貸出数	6件	6件	4件
ビデオ貸出数	1件	0件	1件
火起こし貸出数	3件	2件	1件

(2) 資料貸し出し

資料の貸し出し・掲載許可等実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
所蔵資料貸出数	18件	22件	15件

今年度の内訳

	使用目的（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺跡出土品	3件	0件	1件
フィルム写真データ	0件	0件	0件
デジタル写真データ	2件	8件	0件
その他	0件	0件	1件

(3) レファレンス

当センターでは県内の埋蔵文化財等に関する質問を受け付けている。令和2年度から質問内容の集計を始めた。今年度の県内外からの問い合わせ件数は次のとおりである。

旧石器時代3件、縄文時代3件、弥生・古墳時代1件、古代7件、中近世1件、考古学一般1件、埋蔵文化財センターに関すること4件、その他照会等95件（合計115件）。

第3節 その他の活動

1 図書整理・公開

当センターで発刊した報告書等や他県などから送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。

(1) 全国遺跡報告総覧への公開

- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代土器集成Ⅰ（後期）
- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代土器集成Ⅱ（中期）
- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代土器集成Ⅲ（早期）
- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代竪穴建物跡集成Ⅰ（早期）
- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代竪穴建物跡集成Ⅱ（前期）
- 秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第37号
- 秋田県文化財調査報告書第527集「オノ神遺跡」
- 秋田県文化財調査報告書第528集「鳥野上岱遺跡（第2次） 竜毛沢Ⅳ遺跡 竜毛沢Ⅴ遺跡」
- 秋田県文化財調査報告書第529集「遺跡詳細分布調査報告書」

(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」への一般公開

- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代土器集成Ⅰ（後期）
- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代土器集成Ⅱ（中期）
- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代土器集成Ⅲ（早期）
- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代竪穴建物跡集成Ⅰ（早期）
- 秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代竪穴建物跡集成Ⅱ（前期）
- 秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第37号
- 秋田県文化財調査報告書第527集「オノ神遺跡」
- 秋田県文化財調査報告書第528集「鳥野上岱遺跡（第2次） 竜毛沢Ⅳ遺跡 竜毛沢Ⅴ遺跡」
- 秋田県文化財調査報告書第529集「遺跡詳細分布調査報告書」
- 令和5年度秋田県埋蔵文化財発掘報調査報告会資料

2 刊行物

書名	秋田県埋蔵文化財センター年報 41 令和4年度	発行年月	5年6月
内容	秋田県埋蔵文化財センターの令和4年度の事業活動を総括し、沿革、組織・施設、令和4年度の歩み、事業の概要、運営協議会等を記載。事業の概要では、令和4年度に発掘調査した遺跡の概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

書名	令和5年度企画展パンフレット「HOTTAー『払田柵跡』発掘半世紀ー」	発行年月	5年9月
内容	令和4年9月から11月まで開催の秋田県埋蔵文化財センター令和4年度企画展のパンフレット。県教育庁払田柵跡調査事務所の半世紀にわたる調査成果から、本県や東北地方の古代史における払田柵跡の重要性等を一般県民に分かりやすく紹介。A4判カラー 24頁。		

書名	令和5年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	6年3月
内容	令和6年3月9日に秋田市で開催した令和5年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。令和5年度に県内で発掘調査した遺跡のうち、主要な遺跡の発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。A4版カラー34頁。		

遺跡名	久保田城跡	発掘調査年	30・元・2年度	発行年月	6年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第532集				
内容	久保田城跡—あきた芸術劇場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—				
遺跡の時代	縄文時代 弥生・続縄文時代 平安時代 江戸時代 近代				
遺跡の性格	狩猟場(縄文時代) 散布地(弥生・続縄文時代) 集落遺跡・生産地(平安時代) 城館(江戸時代) 公有地(近代)				
検出遺構	縄文時代: 陥し穴10基 溝跡1条 平安時代: 掘立柱建物跡4棟 竪穴建物跡8軒 土師器焼成遺構2基 井戸跡2基 焼土遺構13基 畑跡1か所 江戸時代: 土塁3か所 礎石建物跡1棟 掘立柱建物跡30棟 竪穴状遺構7軒 井戸跡14基 道路跡2か所 土坑173基 溝跡64条 焼土遺構22基 畑跡2か所 近代: 門跡1か所				
出土遺物	縄文時代: 土器 石器 弥生・続縄文時代: 土器 平安時代: 灰釉陶器 土師器 須恵器 江戸時代: 国産陶磁器 中国陶磁器 土器(かわらけ、焙烙他) 木製品 石製品(硯、温石、砥石他) 非鉄金属製品(銭貨、紙、煙管他) 鉄製品(刀子、釘他) 近代: 防衛食器 レンガ他				

遺跡名	茱萸ノ木遺跡	発掘調査年	元・2・3年度	発行年月	6年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第533集				
内容	茱萸ノ木遺跡—通常砂防事業(オンデの沢)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—				
遺跡の時代	縄文時代 古代以降				
遺跡の性格	集落遺跡(縄文時代) 生産域(古代以降)				
検出遺構	縄文時代: 盛土遺構2基 竪穴建物跡19軒 掘立柱建物跡4棟 竪穴状遺構10基 列石遺構7基 配石遺構18基 フラスコ状土坑7基 土坑79基 土器埋設遺構42基 焼土遺構37基 性格不明遺構10基 古代以降: 掘立柱建物跡1棟 柵列・柱列跡2条 炭焼遺構4基 土坑12基 焼土遺構2基 溝跡1条 性格不明遺構8基 縄文・古代以降: 柱穴様ビット397基				
出土遺物	縄文時代: 土器 土製品 石器 石製品 古代以降: 土師器 砥石 鉄滓				

遺跡名	赤塚遺跡	発掘調査年	元・3年度	発行年月	6年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第534集				
内容	赤塚遺跡—国道13号横根道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書1—				

内 容	遺跡の時代	縄文時代 中世 近世 時期不明
	遺跡の性格	集落遺跡（縄文時代） 散布地（中世・近世・時期不明）
	検出遺構	縄文時代：竪穴建物跡72棟 フラスコ状土坑5基 配石土坑8基 土坑85基 配石遺構9基 土器埋設遺構5基 焼土遺構34基 河川跡3条 柱穴様ビット307基
	出土遺物	縄文時代：土器 土偶 土製品 石器 石製品 中世：龍泉窯青磁 珠洲系陶器 瀬戸美濃陶器 近世：肥前陶磁 銭貨 時期不明：砥石

遺跡名	横堀中屋敷遺跡	発掘調査年	2・3年度	発行年月	6年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第535集 横堀中屋敷遺跡―国道13号横堀道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―				
内 容	遺跡の時代	縄文時代 古代～中世 時期不明			
	遺跡の性格	集落遺跡			
	検出遺構	縄文時代：土坑60基 フラスコ状土坑27基 陥し穴1基 土器埋設遺構3基 焼土遺構9基 水場遺構1か所 河川跡1条 柱穴様ビット130基 古代～中世：溝跡1条 土坑1基 時期不明：掘立柱建物跡1棟			
	出土遺物	縄文時代：縄文土器 土製品 石器 石製品 自然遺物			

遺跡名	清水沢遺跡	発掘調査年	2・4年度	発行年月	6年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第536集 清水沢遺跡―鳥海ダム建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ―				
内 容	遺跡の時代	縄文時代 弥生時代 古墳時代 近世			
	遺跡の性格	墓地遺跡			
	検出遺構	縄文時代：土坑61基 フラスコ状土坑27基 陥し穴1基 近世：焼土遺構4基 土坑墓22基 土坑10基			
	出土遺物	縄文時代：石器 弥生時代：土器 古墳時代：土師器 近世：陶磁器 銭貨 煙管 鉄 数珠玉 漆塗製品 骨片 火山灰			

遺跡名	岩坂下遺跡	発掘調査年	4年度	発行年月	6年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第537集 岩坂下遺跡―県単道路改築事業一般県道矢坂糠沢線（岩坂下工区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―				
内 容	遺跡の時代	縄文時代 平安時代 中世 江戸時代			
	遺跡の性格	集落跡			
	検出遺構	平安時代：竪穴建物跡2棟 柵列跡2条 焼土遺構5基 中世：掘立柱建物跡2棟 柵列跡3条 時期不明：柵列跡3条 柱穴様ビット55基 土坑3基			
	出土遺物	縄文時代：剥片 平安時代：土師器 鉄滓 江戸時代：陶磁器			

書名	秋田県文化財調査報告書第538集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	5年度	発行年月	6年3月
内 容	令和5年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

3 講演・研究論文等

令和5年10月

《資料》結城智「多賀城廃寺跡の創建軒瓦と供給時期の再検討」『災害と境界の考古学 研究発表資料集』 一般社団法人 日本考古学協会

令和5年12月

《資料》赤星純平「5 秋田県」『日本考古学年報75(2022年度版)』 一般社団法人 日本考古学協会

《論文》小松和平「東北地方における有孔罫付土器の様相(2)－東北地方南部の事例報告－」『秋田考古学』第67号 秋田考古学協会

《論文》山村剛「秋田県内の幕末海防施設～港島御台場について～」『秋田考古学』第67号 秋田考古学協会

《論文》乙戸崇「潟上市手の上遺跡出土『木製塔婆』に関する考察」『秋田考古学』第67号 秋田考古学協会

《資料》谷地薫「原始・古代・中世編 第1章原始の小坂・第2章古代の小坂」『新編小坂町史』小坂町

令和6年1月

《論文》富樫那美「秋田県横手地域における縄文時代の墓制」『縄文社会の探究－高橋龍三郎先生古稀記念論集－』高橋龍三郎先生古稀記念論集刊行会

4 職員研修会

今年度は、重点目標の一つに掲げられた「よき公務員、よき社会人、よき人間」となることを目標に職員研修を計画・運営した。人材の育成は今後のセンター経営上の課題となる。今後も職員間でさらに連携を取りながらさまざまな研修を計画・運用することが求められる。

(1) 不祥事防止研修「交通事故をおこさない」

- ①目的 一人一人が不祥事について自分の事として考え、飲酒運転や交通事故などの不祥事を起こさない職場作りをめざす。
- ②期 日 令和5年6月30日(金)
- ③場 所 埋蔵文化財センター・埋蔵文化財センター中央調査班
- ④研修内容
- 1 自分の運転技術をチェック(動画を見てチェック)
 - 2 交通事故のデータを見る
 - 3 予防と対策を考える(事故防止のアイデアを考え発表しあう)

最も重大事故の多い「漫然運転」に焦点を当て、自らの事として考える演習を行った。

(2) 大学院生研究発表会研修

- ①目的 他分野の学術研究に触れ研究意欲を高めるとともに、私田播跡の周辺環境に関する知識を深め、理解と考察の一助とする。
- ②期 日 令和5年12月22日(金)

③場 所 埋蔵文化財センター

④講 師 秋田大学大学院国際資源学研究科修士生 トウグスバヤル ミシエールト 氏

⑤研修内容 1 研究発表 「The characteristics features of groundwater in the
Hondo-shiromawari area, Misato Town, Akita Prefecture, Japan」

2 質疑応答

化学的成分の分析から、研究対象とした美郷町の扇状地に湧く清水は赤倉川や真昼川の水に由来していると考えられるが、弘田柵跡の長森・真山脇に湧く水は雨水の成分に近いことを示す研究であった。

(3) 防災・避難訓練、交通安全講話

実施日：令和5年5月24日（水） 防災避難訓練（地震・火災）／中央調査班 ※栗田支援学校合同

実施日：令和5年10月27日（金） 防災避難訓練（地震）／本所

実施日：令和6年1月19日（金） 防災避難訓練（地震・火災）／中央調査班 ※栗田支援学校合同

(4) 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議

期間：令和5年11月16日（木）～11月17日（金）

会場：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

視察：一王寺遺跡・八戸市博物館・史跡根城の広場 他

4年ぶりの対面開催であったが、十分に準備がなされておりスムーズな運営により進められた。会議では今年度の特徴的なインボイスや猛暑等への対応が話題となり、活発な意見交換が行われた。是川縄文館の活動がボランティアの力に支えられて

いたり、史跡根城の広場が市民の熱意によって整備が進められていること等から感じられる、八戸市周辺地域の遺跡や歴史に対する高い意識と理解が印象的であった。



是川縄文館にて

第5章 運営協議会

- 1 委員：小松正夫委員長、栗林靖雄副委員長、大阪瑞徳委員、北野悟委員、小坂靖尚委員
佐々木淳一委員、星野友実委員、武藤浩紀委員、山崎裕子委員、渡部育子委員
- 2 事務局：磯村所長、大泉副所長、鈴木総務班長、吉川調査班長、村上中央調査班長、
新海資料管理活用班長、谷地弘田柵跡調査事務所調査班長、堀川学芸主事
- 3 第1回：令和5年6月15日(木) 14:00～15:55

- (1) 案件 ① 令和4年度事業報告
② 令和5年度事業計画
③ 本年度の事業等についての提言
- (2) 意見・提言・要望等（抜粋）

- 昨年度の企画コーナー展テーマⅢの内容が非常に良かった。一部は現在も展示しているが、今年度の弘田柵跡50年の展示にもつながるので続けてもらいたい。
- 小学校の職場体験を引き受けていただいてありがたい。セカンドスクールで学んだ所が職場としてどのように仕事をしているのか、体験することも価値のあることだと思う。
- 学術雑誌『日本歴史』に弘田柵跡の企画展に関する情報が記載されていなかった。広報活動の一環として掲載すれば全国的にも情報提供になる。専門の方々も来場すると思われるので、是非お願いしたい。
- 県で取り組んでいるデジタル化の推進に関連し、引き続きYoutube等SNSを活用して活動成果をPRしてほしい。
- 出前授業では地区の遺跡や出土品の紹介を取り入れるなど、学校に合わせた形で行ってもらい「ふるさと学習」にもなった。展示室を見学して、歴史には時間軸とともに空間軸も必要だと感じた。地名だけでなくどこにあるのか（海岸沿いか山沿いか、平地か川沿いか）、空間軸があれば子どもたちが見たとき気付きになる。
- 県内で考古学の研究者がそろっているのは埋蔵文化財センターだけなので、研究面も充実してほしい。予算措置をしながら研究紀要も刊行してほしい。企画展ではこれだけの後援団体があるので、県立博物館の他にどのようにここ（現地）に足を運んでもらうかという広報も考えてもらいたい。
- 自分の地域のことも学ぶことができるということをアピールし、学校利用を近隣だけでなく県南部等に広げていくことができるのではないかと。個人で見学に来た子どもたちに解説や出土品の使い方の体験活動をするのも必要ではないかと。興味を持つ子どもたちが来て良かった、分かったと思える場にしてほしい。
- 当時の住居を図示していたが、食も含め実体験できれば面白い。
- 弘田柵とは何か、これが解明できれば日本の歴史が変わると思って日頃から誇りを持ってガイドをしている。これからもよろしくお願ひしたい。
- 身近に歴史に触れられる機会を提供してくれている。展示から新しい発見をし、さらに解説を聞いて、質問を繰り返しながらコミュニケーションができたりするともっと調べてみたいと思うことにつながると感じた。大曲仙北の社会科研究会にとって非常に大切な施設になっている。

○発掘調査の量（数）や活用事業の量（中味）でたくさんのごことをこなしていることに敬意を表したい。展示室や発掘調査現場を見学することは非常に大切である。以前利用した子どもたちが秋田県の文化財に関わる仕事に就いて活躍している。センターで行っている事業には非常に大きな意味がある。

4 第2回：令和6年2月5日（月） 14:00～16:00

(1) 案件 ① 令和5年度事業報告

② 第1回運営協議会における提言と対応について

③ 令和6年度事業計画案

(2) 意見・提言・要望等（抜粋）

○今年度の企画コーナー展「埋文職員の自由研究」を見学したが、考古学の専門ではない人にも分かりやすく学術的価値を説明していた。来年度も発掘調査などとおして、埋蔵文化財センター職員の研究を続けてほしい。

○Facebookにはその時々のお出来事を掲載しており、興味を引くものもある。事業を実施したときにホームページに活動の様子が掲載されると子どもたちには喜ばれると思う。

○企画展は非常に充実していた。説明部分と展示品が一致していた。

○企画展のパンフレットはストーリー性があり、読み応えがあった。写真もあり説明も分かりやすい。電子化してホームページで公開することを検討してほしい。

○中堅教諭等資質向上研修の研修先として、今後もよろしくお願ひしたい。

○紙媒体とデジタルデータの使い分けについて考える。

・デジタルデータとしてホームページに上げ、ニーズに応じて利用してもらうなど内容に応じた使い分け。

・QRコードを活用するなどの工夫。

・考古学を含めた歴史学では、紙媒体でなければ取り上げてもらえないものもあることに注意。

○県同士の機関連携のほかに、市町村の生涯学習課や文化財担当課と連携することによって、活用・普及が一層図られる部分があるのではないか。

○私田柵跡の入門書のようなものや初心者でも分かるような仕掛けのようなものがあると、次第に多くの人に広がっていくのではないか。

○「ミズモの郷キャリアスクール」の子どもたちに来年度も協力をお願いしたい。

○子どもを対象としたような事業でさらに力を入れてほしい。学校の方でも埋蔵文化財センターを十分に活用してほしい

○子どもたちに実体験をたくさんさせてくれる施設であり続けてほしい。

令和5年度 職員名簿

	職 名	氏 名
	所長	磯 村 亨
	副所長	大 泉 真
総務班	副主幹（兼）班長	鈴 木 菜穂子
	副主幹	高 橋 皇 司
	専門員	佐 藤 広 文
	主任	皆 川 哲
調査班	副主幹（兼）班長	吉 川 耕太郎
	学芸主事	千 葉 学
	学芸主事	矢 尾 健
	（兼）文化財主査（本務：弘田柵跡調査事務所）	谷 地 薫
	文化財主任	赤 星 純 平
	文化財主事	小 松 和 平
	文化財主事	大 上 立 朗
資料管理活用班	副主幹（兼）班長	結 城 智
	学芸主事	新 海 和 広
	学芸主事	柴 田 浩 一
	文化財主事	堀 川 昌 英
	文化財主事（臨時的任用職員）	小 山 美 紀
中央調査班	主任文化財専門員（兼）班長	藤 原 司
	副主幹	村 上 義 直
	副主幹	小 松 恵美子
	学芸主事	宇田川 浩 一
	学芸主事	櫻 庭 悦 央
	学芸主事	山 村 剛
	文化財主査	武 藤 祐 浩
	文化財主査	山 田 祐 子
	文化財主任	巴 亜 子
	文化財主任	富 樫 那 美
文化財主任	乙 戸 崇	

秋田県埋蔵文化財センター年報42

令和5年度

発行 令和6年8月

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 大仙市弘田字牛嶋20番地

電話 (0187) 69-3331

FAX (0187) 69-3330

URL <https://common3.pref.akita.lg.jp/maibun/>

